

人の活動領域の制約を超え 人とロボットが協調する社会を実現

■ 背景・課題

・人が容易に立ち入れない災害現場や広域屋外空間、危険区域などの環境での状況把握の遅れや、人手不足が大きな課題となっています

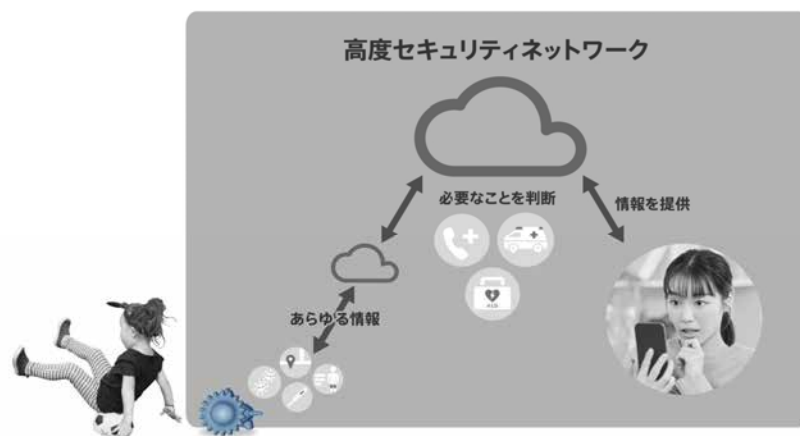
■ 技術の本質・ポイント

・AI連携による自立判断 (コンセプト)

・ロボットが自ら移動し収集した環境データをネットワーク上のAIで解析、行動に反映

・6Gの超広域カバレッジを活かした活動領域の拡張

・人の立ち入りが難しい山間部や災害現場等でもロボットが自律的に活動可能



■ 活用シーン

自然環境・広域屋外空間の環境チェック

人が常駐できない場所でもロボットが活動し
動物・環境保護や異常検知に貢献

人の生活圏と共存する見守り・支援

人々の生活空間と共存しながら
防犯・見守りなどの役割を自然に果たす

災害時における即時の状況把握

被災地や危険区域の状況を
自律的に収集・可視化し初動対応を支援

■ ビジネス実装・提供価値

想定業種：自治体、防災関連機関、インフラ

実装フェーズ：コンセプトモデル

□ 共創パートナー

・Y・U・K・A・I・
・E・N・G・I・N・E・E・R・I・N・G・

